

第4章 小学校第1学年前期の教育

1 幼児教育等をつなぐ小学校教育

次の事例は、入学式終了後の教室で、入学式を終えたばかりでの子どもたちとその保護者全員に向けて、担任が話した内容である。

4月9日（木）入学式

入学式、ご苦労様でした。式でも紹介がありましたが、今年度、1年2組を担当することになりました松波太郎と申します。今日は、みなさんの式での元気な姿、しっかり話を聞く姿にとっても感心しました。また、3月には幼稚園・保育所等での年長さんとしての活動や卒園式での立派な姿を見て、先生は決めました。先生は、みなさんを小学校1年生だからといって、子ども扱いはしません。いろんなことができるし、自分で考えて、遊んだり、生活したり、勉強したりできる力があると信じています。（と、言って、黒板に『自ら考え、行動する子ども』とふりがなを付けて書いた。）

だから、朝寝坊をして学校に遅れそうになったらどうするか、自分で考えてください。教科書やノートを忘れても怒りません。でも、「どうして、忘れてしまったのか」聞きますし、「教科書やノート無しでどうやって勉強するか」自分で考えてもらいます。

先生が怒るときがあります。それは、うそをついたり、弱い人をいじめたり、ものを粗末にしたりするなど、人やものに対して「思いやり」のない行動をした時です。その時は、とても怖い先生になります。（と、言って、黒板に、先生が怒るとき、「うそをついたとき」「よいいものをいじめたとき」「ものをそまつにしたとき」と書いた。）

でも、自ら考えて行動したり、自分の思いを言ったりして、友達と喧嘩になってしまう時がありますが、それは仕方ありません。その時、先生は怒りません。でも、喧嘩してしまったお友達とどう仲直りするか考えてください。仲直りの仕方がわからないときは先生も一緒になって考えます。

担任の教師の真剣な話に、子どもたちは緊張していたが、「どうやら、先生はぼくたちのことを頼りにしているみたいだ。」と、表情は、1ヶ月前（年長）の頼もしい子どもたちに戻った。そして、次の日の朝、絵本の読み聞かせを終えると、これからの生活や学習について、時計や一日の生活時間表や写真を使って話をした。

4月10日（金）

さあ、今日から勉強始めるよ。黒板を見て下さい。今まで皆さんが幼稚園・保育所等で遊んだり、いろんな活動をしてきたりした生活時間表です。（と、言って、幼稚園等で実施されていた「幼稚園の一日」を黒板に貼る。）そして、これが、皆さんが小学校で生活する時間表です。（と、言って、同じように「小学校の一日」を黒板に貼る。）

幼稚園や保育所の時は、午前中は自分が選んだ活動（遊び）をしていましたね。学級みんなで活動することもあったようだし、給食もありましたね。この辺は小学校と同じです。小学校のお兄さん、お姉さんは、国語や算数、体育や音楽、図工と毎日、1時間ずつ、6校時目まで勉強しているんですよ。でもね、少しずつ小学校の生活に慣れていくために、みなさんのために特別メニューを考えました。

- ① まず、「朝の時間」はゲームをしたり、歌ったりして楽しくすごします。だから、お兄さん、お姉さん達より、ちょっと時間が長いです。
- ② 1校時は、「わくわくドキドキタイム」、時間は30分です。1校時は教室で勉強します。

みなさんが、小学校に入ったら頑張ろうと思っている、「文字や数」の勉強をします。ここでは、先生がしっかり教えるから、頑張って勉強しましょうね。その他にも、お友達と仲良くなる勉強や、学校生活のことを覚える勉強をします。

③ 2校時目は、お兄さんやお姉さんと同じく「45分」の勉強だけど、頑張れるかな。この時間はちょっと長くなるので、みなさんの大好きな体育や図工、音楽をします。

④ さあ、ここで中間休みです。20分あります。この時間は自由だけど「どんな遊びをするか」、「どう過ごすか」、これから一緒に考えていきましょう。

⑤ いよいよ、3、4校時目です。ここは、続けて80分です。ここでの学習は幼稚園や保育所のとくと同じように友達と一緒に楽しく活動します。どんな活動があるか楽しみにしてください。

⑥ そして、待ちに待ったの給食の時間です。みなさんは幼稚園の時も自分たちでしっかり準備していただきたそうですね。給食は、来週の月曜日から早速始まります。

そして、…………。

話が終わり休み時間になると、子どもたちは担任の所かけよってきた。

「先生、ぼくね、ひらがな勉強するの、とっても楽しみなんだ。」

「ぼくね、虫のことなら何でも知ってるよ。学校で虫のことも勉強するの？」

「体育の勉強って、何をするの？」

「3、4校時の80分って、幼稚園の時のように自分の好きなことをしていいの？」

「給食のごはん、私、ちゃんと盛りつけできるよ。」

子どもたちは、これからの学校生活が少し見えてきたことに安心と大きな期待感を持ったのである。幼児教育等においては、活動の自己選択があり、自主性の芽は大きく育まれている。自主性のある子どもたちにとっての大きな壁は、何をしたらいいかわからない中での指示である。まるで、目隠しをされて右、左、前へと言われているようなものかもしれない。

小学校の生活時間は、幼稚園・保育所等とは大きく違うが、ちょっとした工夫で子どもは円滑に適応していくものである。そこに、一日の生活の見通しと、魅力ある学習活動が行われれば、子どもたちは、幼稚園・保育所等での遊びと同じように夢中になって取り組むのである。

今、述べてきた事例は、入学式当日を含めてたった2日間の担任教師の話の内容であるが、これだけでも、「幼児教育等をつなぎ、円滑に小学校教育を進めていこう」という次のような教師の考えが見える。

- ① 1年生だからと言って、子ども扱いしないこと。
- ② 人間の生き方の根幹である「自主性」「思いやり」について、その意味が十分わからないとしても、一日目に子どもに話すこと。
- ③ 親に対しても、教師の教育観をきちんと伝えること。
- ④ 幼児教育機関等の一日の生活と比較しながら、小学校の一日の生活を紹介し、子どもたちのために工夫したことを伝え、学習や生活への意欲を喚起していること。

次頁から、各小学校で努力・工夫して欲しい「幼児教育等をつなぐ4つの工夫」について述べていくことにする。

2 幼児教育等をつなぐ4つの工夫

小学校第1学年の4月～7月までを、幼児教育等から小学校教育への円滑な移行が行われるための接続期としているが、この時期の教育において次のことに留意していくことが大切である。

- 幼児教育等をつなぐ「教育観」を持って指導にあたる。
- 幼児教育等とのつながりに留意した「環境構成」の工夫を行う。
- 幼児教育等とのつながりに留意した「カリキュラム」による授業を行う。
- 幼児教育等とのつながりに留意した「一日の生活」で学習や生活を行う。

(1) 幼児教育等をつなぐ「教育観」

これまで述べてきたが、幼児教育等の5歳児後期は、協同性を大切にした遊びを通して自主性や思いやりの芽を育むことを教育の軸として取り組むことが大切であり、この考え方は、小学校第1学年の前期においても引き継がれていくべきである。

まずは、幼稚園から小学校生活へ安心して移行し、心を開放し自分の力を精一杯表現できるために、子どもにとって当面の課題となる学校生活や環境について、幼稚園や保育所等の環境、生活を取り入れていくようにする。

さらに、幼児教育等で育まれてきた力、友達とかかわりながら試行錯誤して目的を達成しようとする力を十分活かしながら、生活科を核にしたテーマ学習や教科の学習で知への興味を耕し、自分で考え、行動して、目的を達成していく力を育むことが大切である。

幼児教育等をつなぐ「教育観」

1. 「遊び」から「学び」へ！共に育む「自主性」と「思いやり」

「自主性」とは

- ①自ら考え、行動(表現)すること(自覚)
- ②独り立ちすること(自立)
- ③自分自身で立ち回れること(自律)

「思いやり」とは

- ④心を配ること
- ⑤想像・推察すること
- ⑥思慮・分別があること

2. 「4つの目」を持つ教育のプロになれ



- ①内面を見る「透視の目」
- ②よさを引き出す「感性の目」
- ③継続してみる「プロセスの目」
- ④振り返る「内省の目」

また、幼児教育等の中で行われている保育者の子どもを見取る「4つの目」は、小学校教育における教師も大切にしていかなければならないことである。

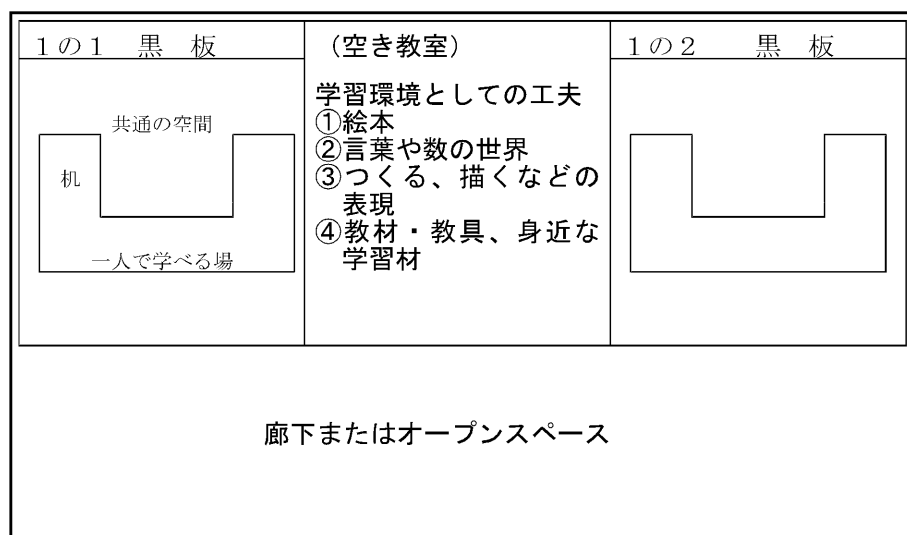
“子どもの見取り方によって、子どもの育ちが方向付けられる”と言っても過言ではない。そして、子どもの内面を見る「透視の目」、よさを引き出す「感性の目」、継続して見る「プロセスの目」、子どもへの支援についてこれでいいのかとふり返る「内省の目」は、意識として持つだけでなく、絶えず研いでいくことが大切である。

（２）幼児教育等とのつながりに留意した「環境構成」

幼稚教育機関等から小学校に入学すると、保育室環境から小学校の教室環境へと変化する。幼児教育機関等では決まった自分の席はなく、自由に遊べるスペースを確保している場合が多い。一方小学校の教室環境はと言うと、整然と机が並べられ、一斉に学習することに適した環境となっている。このような環境の違いをどう工夫していくかが大切である。

まず、本県では、少子化に伴う児童数の減少とともに学級数も減り、多くの学校に「空き教室」がある。

学年毎にその活用の工夫が見られるが、特に１年生においては、右図に示すように、「遊び」や主体的な学習活動のできる空間をつくることに

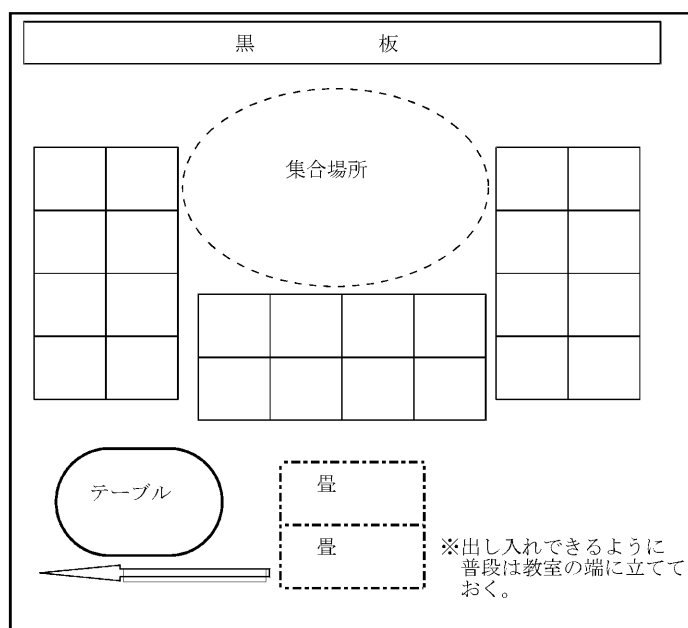


より、幼稚園・保育所等の時と同じとまではいかななくても、それに近い活動を保障することができる。生活科での学習活動はもちろんであるが、算数や国語の時間に課題解決を終えた児童の自由学習などにも活用できる。

このような空き教室がない場合は、学級の教室空間を活用することが考えられる。幸いにも、本県では、県全体の半数が２０名以下の学級であり、且つ、その他の学校においても“教育山形「さんさん」プラン”により、２１人～３３人以下の少人数学級である。この少人数学級の利点を活かして、ゆとりのあるスペースを工夫することができる。

例えば、二畳ほどの畳を敷いて、幼稚園等で遊んでいた玩具（ドミノ、積み木等）や絵本を置くことや、テーブルを一つおいて、折り紙や工作、その他の学習などが自由にできるようにすることも考えられる。この空間は、やがて、多様な学びの空間に発展していくことになる。

フリースペースがあれば、子どもたちの間に、「その場所を使って話し合う、一緒に考える、活動する。」という習慣が自然に身に付く。単なる物理的な場所でなく、やがて実施される自立した協同的な学びにもつながっていく。子どもたちには、「時には教師の管理から離れたい」という気持ちがあり、その意味でも効果がある学習空間である。



（３）小学校第１学年「１学期」の学年（学級）経営カリキュラム

① 生活科を核にした合科的な単元を取り入れたカリキュラムづくり

児童の発達の特性や各教科等の学習内容から、入学直後は合科的な指導などを展開することが適切である。例えば、４月の最初の単元では、学校を探検する生活科の学習活動を中核として、国語科、音楽科、図画工作科などの内容を合科的に扱い大きな単元を構成することが考えられる。こうした単元では、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動を、ゆったりとした時間の中で進めていくことが可能となる。大単元から徐々に各教科に分化していくスタートカリキュラムの編成なども効果的である。

このように総合的に学ぶ幼児教育等の成果を小学校教育に生かすことが、小１プロブレムなどの問題を解決し、学校生活への適応を進めることになるものと期待される。入学当初の生活科を核とした合科的な指導は、児童に「明日も学校が楽しみ！」という意欲をかき立て、幼児教育等から小学校教育への円滑な接続をもたらしてくれる。

（い）カリキュラムづくりの手順

ア 通常のカリキュラムを整理する

さて、生活科の学習活動を中核にした小学校第１学年の１学期の学年（学級）カリキュラムをつくるためには、まず、従来のカリキュラムを整理する必要がある。目標や内容まで整理する必要はなく、単元名や題材名と必要な時数を一覧に整理することが大事である。

イ スタートカリキュラムを創る

◇ 生活科を核にした合科的な単元構想を考える。

幼児教育等とのつながりの中で小学校教育をスタートさせるためには、生活科を核にした合科的な学習をどのように構想し実施していくかが大切である。テーマによって構成されること、従来の生活科の学習内容に各教科の内容が統合され、よりダイナミックな学習活動が展開されること等がポイントとなる。このような単元構想は、幼児教育等の理念を受け継ぐものとなっており、この時期の子どもたちにとって、自然に小学校における学習に移行することが可能となる。

◇ 小学校での学習や生活に適応していくための「３０分授業」を計画する。

小学校での学習や生活に適応していくために、次の３つの授業の計画を立てる。

適応授業Ⅰ： 「読む・書く・話す・数える」等の学習

適応授業Ⅱ： 「学校生活の仕方等」の学習

適応授業Ⅲ： 「仲間づくり」の学習

ウ 従来のカリキュラムとスタートカリキュラムの時数を整理する

スタートカリキュラムで実施する学習内容は従来のカリキュラムから削除する。

※関連・合科について（学習指導要領より）

【関連的な指導】

教科等別に指導するにあたって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するものである。

【合科的な指導】

教科のねらいをより効果的に実現するための指導法の一つである。単元又は１コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開する。

（ii）カリキュラムづくりの具体例

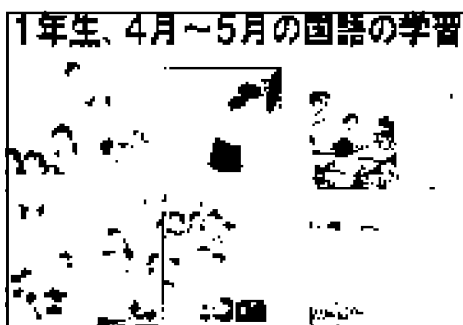
生活科を核にした合科的なカリキュラムについては、学習指導要領の趣旨を踏まえた上で、学校の指導計画や子どもの実態に応じて工夫した単元構想にしていけることが大切であるが、ここでは、比較的簡単にできる「教科書の学習内容」を組み合わせたカリキュラムを紹介する。

まず、1年生の4月、5月の生活科の学習は「学校探検」である。その教科書の内容から3回の「学校探検」の活動で生活科の学習を進めていくことにする。

学校探検①は、まずは先生と一緒に校内巡りである。学校探検②は、わくわくドキドキする、好きな場所、遊び場所探しである。そして学校探検③は、体験したことを「伝え合う」学習である。

ここで、1年生の国語科や図画工作科の教科書を見てみると、生活科の学校探検と関連の深い内容が扱われている。

まず、国語科であるが、「しらせたいな、わたしのなまえ」「あいさつ」「おはなしをたくさんききたいな」「いろんな



ほんをよみたいな」の学習がある。これらの学習は、学校探検①の組み合わせ、合科的な学習で進めることができる。図書館の先生（司書補助等）や図書ボランティアの方と連絡し、学校探検①の校内巡りで、図書館の先生にお話を聞くことで、本に対する興味・関心を喚起することができる。

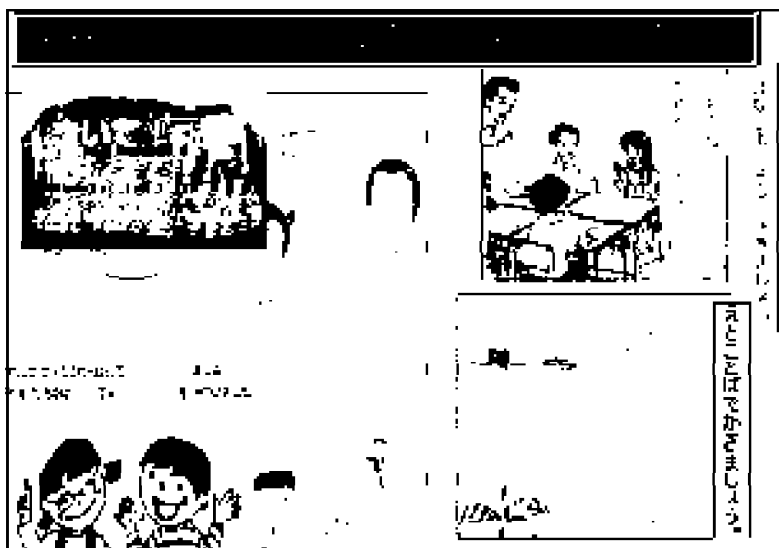
図画工作科の教科書を見てみると、「すなやつちとなかよし」「チョークで楽しく」の学習がある。子どもは幼児期から造形遊びは大好きであり、幼稚園では大きな山や砂場は魅力的な遊び場であった。小学校では敷地内の道路がチョークで描くキャンパスとなる。ここは、学校探検②での遊び場所探しのナンバー1になれる場所である。ここで、図画工作科と生活科を合科することにより、「遊び」を中心にしたダイナミックな学習を展開していくことができる。



学校探検③は右に示したように、生活科と国語科の合科が可能となる。

学校探検①と学校探検②をもとに、「きいて！おしえて！つけたこと」という学習を学校探検③として生活科で計画している。

国語科では、「はなしをききましょう」「えとことばでかきましょう」という、学校探検③と合致する学習内容が計画されている。



そこで、学校探検③に入る時に、国語科の「はなしをききましょう」「えとことばでかきましょう」を学習し、「伝え合う」ための、話し方、書き方、聞き方の基本を学び、実際に体験した学校探検①、学校探検②をもとに、意欲的に「伝え合う」活動をしていくことになる。これは、国語科の学びが生活科で活用される効果的な合科学習と言える。

以上の学習内容を一つのまとまりとして構想すると、下記のような学習計画ができあがる。総時数が 31 時間と多いが、学校探検①、学校探検②、学校探検③の一つ一つのまとまりの合科を丁寧に進めていくことが大切である。

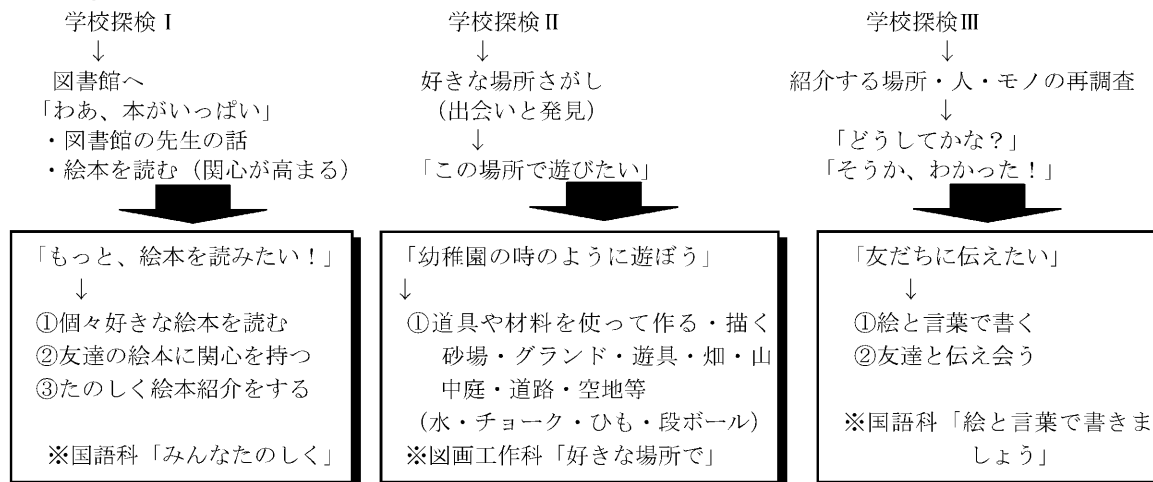
生活科を核にした合科的な学習「友だち大好き！学校大好き！」

生活科 13 時間 国語科 11 時間 図画工作科 8 時間

1. 幼児教育をつなぐ力

- | | |
|-------|--|
| ①遊ぶ力 | 目的を持って、一定の空間と時間で友と工夫しながら楽しく遊ぶ。 |
| ②自主性 | 自分が「～したい」と思うことを、友とのかかわりの中で取組むことができる。 |
| ③思いやり | トラブルが起きたら話し合う、独りぼっちの友達がいたら仲間に入れる等、相手意識から仲間意識を持つことができる。 |

2. 単元のデザイン



②小学校の学習や生活に適応していくための学習（わくわくドキドキタイム）

小学校1年生の1学期は、幼児教育等のよさを引き継ぐとともに、幼児教育等とは違う小学校教育をスタートする時でもある。その1つが、文字学習「読む」「書く」、数の学習である。また、学校生活は、幼稚園・保育所等とは違う生活があり、学校生活に適応していく学習も必要である。そして、何よりも学習と生活が一体となった「学級集団」の中で良好な人間関係を築いていくことも不可欠なことである。

また、これらの学習に対して、子どもは「文字を書けるようになりたい。」「数の勉強がしたい。」「友達と仲良くなりたい。」という大きな期待感もあるが、「できるかな?」という不安もある。だから、わくわくもするがドキドキもする。

そして、この「わくわくドキドキタイム」は朝の会終了後の1校時目に30分実施する。朝の会を終え、心も身体も開かれた状態において、子どもの脳は活性化する。また、この時間は、学習に対する集中力もある。この時間に、集中して覚える（習う）学習や生活の仕方を知る学習を位置付けることが効果的であると考ええる。

以下、3つの適応学習を紹介する。

【適応学習Ⅰ】

A：お話玉手箱（読み）	B：文字を習う（書き）	C：数の基礎（計算）
① 教師や地域の方の絵本の読み聞かせ。 ・話を聞く。 ・感想を話し合う。 ② 簡単な話を聞き暗唱する。	① 文字を習い言葉を覚える。 あいうえお がぎぐげご しゃしゅしよ 等 ② 言葉を使って短作文を書く。 ※「は、を、へ」を使う。	① 数える ② 何番目 ③ たしざん ④ ひきざん ⑤ 時計の見方(時間)

（適応学習Ⅰの事例 その1 30分×15回）

算数：「いち」「に」の「さん」すう			
①	○ 数字カード作り(表に数字・裏に同数のシール)	⑨	○ □になる組み合わせを作る ○ 10になる組み合わせを作る (ペアで)
②	○ 数字カード作り(表に数字・裏に同数のシール)	⑩	○ 隠れている数をあてる (全部で7つ 左手に3つ 右手は ?)
③	○ 数字カードで遊ぶ (ペア : どっちが大きいかなゲーム)	⑪	○ 順番に線で結んで絵を描く
④	○ 数字カードで遊ぶ (双六 出た数だけ色を塗って進む)	⑫	○ たし算カードで遊ぶ(フラッシュカード)
⑤	○ 4を探す・6を探す (身の回りから 4 (6) つ組みを探す)	⑬	○ たし算カードで遊ぶ(フラッシュカード)
⑥	○ 虫食い数字列車に数字を書く ○ ないのはどれ(シールと数字の対応)	⑭	○ ひき算カードで遊ぶ(フラッシュカード)
⑦	○ 6になる組み合わせを作る ○ 10になる組み合わせを作る (ペアで)	⑮	○ ひき算カードで遊ぶ(フラッシュカード)
⑧	○ □になる組み合わせを作る ○ 10になる組み合わせを作る (ペアで)		

(適応学習Ⅰの事例 その２ ３０分×３０回)

	国語：お話玉手箱	国語：しっかり書こう「あいうえお」
①	○ 読み聞かせ＋お絵かき (お気に入りの場面や人物を絵に描く)	○ ひらがなの書き方を覚えよう
②	○ 読み聞かせ＋クイズ (アニメーションより 実態に合わせて選択)	○ ひらがなの書き方を覚えよう
③	○ 読み聞かせ＋クイズ (アニメーションより 実態に合わせて選択)	○ ひらがなの書き方を覚えよう
④	○ 詩(リズム詩)の暗唱タイム (この時間内で暗唱できるような詩)	○ ひらがなの書き方を覚えよう ○ 習った文字で書ける○○(例 むし等)
⑤	○ 読み聞かせ＋読み違えた読み聞かせ等 (アニメーションより)	○ ひらがなの書き方を覚えよう ○ 習った文字で書ける○○(例 動物等)
⑥	○ 読み聞かせ＋お絵かき (お気に入りの場面や人物を絵に描く)	○ 似ている文字探し(字形に着目して似ている (違う)ところを見つける)
⑦	○ 詩(リズム詩)の暗唱タイム (この時間内で暗唱できるような詩)	○ ひらがなの書き方を覚えよう ○ ひらがな探し(促音・長音・拗音探し)
⑧	○ 読み聞かせ＋主人公に質問しよう (ペアで主人公の役割演技をして質問ごっこ)	○ ひらがなの書き方を覚えよう ○ ひらがな探し(促音・長音・拗音探し)
⑨	○ 読み聞かせ＋どっちのお話が好き	○ ひらがなの書き方を覚えよう ○ ひらがな探し(濁音・半濁音探し)
⑩	○ 詩(リズム詩)の暗唱タイム (この時間内で暗唱できるような詩)	○ 暗記した詩の部分を視写し、絵を添えてカード をつくる
⑪		○ 名前集め(あいうえおカードに書く) (あから始まる言葉・いから始まる言葉)
⑫		○ ひらがなの書き方を覚えよう (文字でしりとり)
⑬		○ 友達・先生の名前集め (同じグループ・学校探検とつないでカードを作る)
⑭		○ くつつきの「は・を・へ」を探してみよう
⑮		○ くつつきの「は・を・へ」を使ってみよう
⑯		○ 主語＋述語の文を作り、読点・句点の打ち方 を覚える
⑰		○ 主語＋述語の組み合わせを変えるゲーム
⑱		○ ありがとうカード作り (ありがとうを見つけて心をこめて書く)
⑲		○ 七夕の短冊を書く
⑳		○ 手紙を書く(３０字程度の手紙)

※ 適応学習Ⅰは、それぞれ３０分の学習内容を設定しているが、学習内容によっては、１５分ずつにして、２つの学習内容を組み合わせて行うこともある。

事例①「お話玉手箱１５分」＋「しっかり書こう あいうえお１５分」

事例②『いち』『に』『さん』の『さん』すう」＋「しっかり書こう あいうえお１５分」

次の２つの適応学習は、いわゆる学級活動の下記の目標と関連して設定するものである。

- ア 学級生活の充実と向上をめざして、友達と協力して活動できる能力や態度の育成を図る。
- イ 自主的な活動を充実させ、望ましい人間関係、基本的な生活習慣の育成、健康で安全な生活
ができる態度の育成を図る。

【適応学習Ⅱ】

学校生活のルールを知り、安心・安定した生活を送ることができるようにする。

この学習では、学校生活のルールを体験的に学ぶことが大切になる。特に、4月の初期段階では、登下校の安全、学校生活の約束、「食べる・排泄する・身の回りをきれにする」等の基本的な生活の仕方等を中心に学習していくことになる。

学校生活が広がるにつれ、図書館や遊具の使い方等も徐々に学んでいくようにする。

(適応学習Ⅱの事例 30分×9回)

	小学校生活適応のための学習
①	安全な登下校
②	楽しい給食
③	学校をきれいに「掃除の仕方」
④	学校生活の約束（廊下の歩き方 トイレの使い方 遊び場所・・・）
⑤	図書館の使い方
⑥	交通事故に気をつけて（道路の歩き方 危ない場所）
⑦	火事や地震が起きたら「避難の仕方」
⑧	遊具での遊び方
⑨	生活リズム（早寝早起き朝ごはん テレビ・ゲームはルールを作って）
⑩	

【適応学習Ⅲ】

友達との良好な関係を築き、安心・安定した気持ちで生活を送ることができるようにする。

1年生の子どもや親の最大の関心事は「友達ができ、仲良く遊ぶことができるか」ということである。「集団遊び」等のグループ体験を中心にした学習を意図的に計画し、ありのままの自分を受け入れ、そして表現し、友達との信頼関係を深めていくことが目的になる。また、週に1回程度の学習になるが、この30分の学習が休み時間や家庭・地域での友達同士の遊びに活かされていくようにしていくことが大切である。

(適応学習Ⅲの事例 30分×9回)

	好ましい人間関係をつくる活動
①	あいさつ・自己紹介（「おはようございます 私の名前は〇〇〇〇です」）
②	進化じゃんけん（ミミズ→カエル→ゴリラ→人間）
③	質問じゃんけん①（勝った人が相手に質問し、負けた人は答える）
④	2年生と一緒に校歌を歌おう
⑤	そうだねゲーム（2人組で1人が「あれは黒板だよ」という、相手は「そうだよ」と言う）
⑥	質問じゃんけん②（勝った人が相手に質問し、負けた人は答える）
⑦	スピーカー（4人が、ライオンの各1文字を一斉に言い、相手チームが何を言ったか当てる）
⑧	新聞紙1枚の空飛ぶジュウタン（新聞紙1枚に何人まで乗れるか競う）
⑨	世界に1つのシンボルマーク（班のシンボルマークを考えて発表し合う）
⑩	

（４）小学校スタート時の一日の学習と生活時間

① 幼保小の滑らかな移行は一日の生活から

１年生の子どもは、小学校生活に大きな期待を抱きながら登校する。そして、毎日の生活の中で期待したことを実感し、「友達大好き、勉強大好き、学校大好き」な子どもになっていくのである。

よって、１年生の１学期における一日の生活の仕方を工夫し、小学校生活への滑らかな移行を進めていくことが大切である。

下記の表はその一例である。

◆ １年生の子どもが困難に感じる小学校の学習や生活

- ① ４５分ずつ小刻みに且つ受け身的な学習が進められること。
- ② 「遊び」を核にした体験的学習が少なくなり、机に座っての学習が多くなること。
- ③ 集団行動の約束が多いこと、朝の会や終わりの会、掃除、給食の時間が短いこと。

幼稚園等の一日		小学校の一日 (小１、４～７月まで)	
時 刻	一日の生活	・日の生活・学習	時 刻
8:00		登 校 (自由遊び) 朝 の 会	8:00
8:30	登 園	+15分	8:30
9:00		1校時 30分授業 適応・スキル	9:00
	遊 び (自ら選んだ活動)		9:30
			9:35
11:00	課題活動（クラス活動） 絵画・制作・歌・表現・運動等	2校時 45分授業	10:20
12:00	給 食	中間休み	10:40
13:00	クラス活動	3、4校時（80分） 合科的な学習 -10分	12:00
13:30	降 園 準 備	給 食	13:00
14:00	降 園	+15分	13:30
		掃除・昼休み	14:15
		5 校 時 45分授業	14:45
		終わりの会 下 校	
		+15分	

※ 3.4校時の-10分については5月迄とし、不足時数（7時間程度）については年間計画で調整していく。

② 子どもの実態に即した生活と学習

◇ゆとりをもった「朝の会」(15分→30分へ)

小学校1年生の朝の会では、下記のような目的を持って進めることによって、元気に一日をスタートすると共に、コミュニケーション等の能力を継続的に高めていくことができる。

- 声を出し、身体を動かし、心を開く
- 自分のことを話し、友達の話も聞く
- 教師の話聞く



③ 給食前の2時間は体験や活動を中心にしたテーマ学習

給食前の3、4校時は、生活科を核にしたテーマ学習を行う。時間は、準備・後片づけも入れて80分にする。幼稚園での2時間の「遊び」を核にした自由選択活動と同じような感覚で活動させることが大切である。

④ その他の日課の工夫

・ ゆとりのある給食の時間(+15分)

準備や後片づけの時間をしっかり確保するとともに、「給食の時間」を活用した食育を行う。(ゆっくり、楽しく食べる。3分間の食べ物のお話等)

・ 一日を振り返り、明日への希望を持つ「終わりの会」(+15分)

終わりの会では、帰りの支度(身支度、持ち物等)や机、ロッカーの整理等をきちんとすることや今日一日を振り返り、明日への希望を持って「心豊かに」下校することが大切である。(下校時の事故防止 家庭での楽しい会話へとつながる)

小学校第1学年1学期のスタートカリキュラム(事例)

従来の1年生1学期の総時数(296h) 新1年生総時数ニスタートカリキュラム時数121h(通称授業時数42h)十テ

項目	時数	4 月	
		計	
目標	63回	1. 自分がしたいと思うことに取り組みることができる。 2. 友達の話や気づきに傾心を持つことができる。 3. 一つ一つの行動にけじめをつけることができる。	1. 自然科学等へ 2. 友達とのトラ 3. 学校生活や
適応Ⅰ(学習)	45回	A. お話玉手箱(10回) B. しっかり書こう! あいうえお(20回) C. 1、2のさんすう!(15回)	
適応Ⅱ(生活)	9回	1. 登下校 2. 給食 3. 掃除 4. 学校の約束 5. トイレの使い方・図書館の使い方	6. 交通事故に
学活 6			
適応Ⅲ(仲間)	9回	1. おはよう 2. 遊び 3. 遊び 4. 2年生と一 緒に唱歌を歌おう	5. 遊び 6.
国 2 音 4			
生活科を核にした総合的な学習	79	テーマ学習1 友達大好き 学校大好き 31時間 (生活科 14h 学校探検Ⅰ 5h 学校探検Ⅱ 5h 1学校祭り体験・2忍者になって探検ゲーム→3友達と好きな場所、遊べる場所 国語「みんなとたのしく」 5h 1図書館で絵本に出会う 2絵本を楽しく読む 3友達と絵本を紹介し合う 国工「好きな場所で」 6h 1好きな場所をさがす。 2砂場、庭、畑、グラウンド、道員、 空き地等で友達と変形遊びをする。 テーマ学習2 春を楽しもう 16時間 (生活科 8h 国語 5h 音楽 国語「はるのおたより」 3h ◎絵からお話を想像する。 ・どんなところ? ・何している? ・どんなお話をしている? 生活科「春を探しに行こう」 8h 道徳「みんなの公園」 1h ◎春の道、春の公園、春の野原な どで春をさがし、遊ぶ。 音楽「うたでさんぽ」 2h	
教科の関連を組み入れた各科的な学習	生 37 国 29 図 6 道 1 音 6		
学校行事	13	新任式 給食式 入学式 通学集会 身体計測	創立記念式
児童会活動	6	お花見会、1年生を迎える集会	
学級活動	44	1. たのしい学校給食 2. ともだちいっしょ 3. わたしたちのきまり 4. 安全な登下校	
国語(言語事項)	87	1. はるのおたより 8h 2. みんなとたのしく 5h あいうえお 2h くりとり 2h	
(書写)	36	書写 1h	
算数	38 28	1. なかまづくり 3h 2. かずのなまえ 4h 6h	
生活科	37 0	1. みんななかましく 26h 1. おくわく 15h 2h 2. わたしのがっこう 4h	
音楽	23 13	1. うたでともだちをつくらう 6h うたでさんぽ そろさんのさんぽ	
図工	23 17	1. みつけたよ 2h 2. すきなもののなまえ 2h	
体育	45	1. かいっばいあそぼう 走る 3h 跳 1h 鬼遊び 7h	
道徳	43 12	たのしいがっこう 1h あかるいあいさつ 1h	

テーマ別合科学習79h) 従来の授業時数175h

5 月	6 月	7 月
5への学びに興味関心を持ち、自ら考え、行動することができる。 ラブルを話し合って解決していく等、仲間意識を持つことができる。 学習のルールを守ることができる。		

2. 気づきよう 7. 安全な避難 8. 道具での遊び方 9. 生活リズム(早寝早起き朝ごはん)

3. 遊び 7. 遊び 8. 遊び 9. 遊び

国語 11h 図工 8h)

学校探検Ⅲ 4h

所探し → 4. お気に入りの人・モノ・場所再調査

国語「絵や言葉で書きましょう」 6h

1. 学校の気に入った場所・人・モノ又は遊びなどを絵や言葉で書く。

2. 友達と伝え合う

5. 2h 道徳 1h

国語「はるのおたよりⅡ」 2h

つ体験をもとに、再度、お話の中の動物たちの言葉を想像

ぼくたちも
きれいな花を
咲かせたい

テーマ学習4 お話を楽しもう
25時間 (生活科 2h 国語 13h 音楽 4h)

課題
お話を創作して、発表会を企画し、いろんな人に見てもらう。

1. 「おおきなかな」を読んで、どんな学習をしたいか話し合う。 4h

2. グループで「おおきなかな」の劇づくりをする。 4h

↓

3. 劇にしたいいろんなお話を紹介し合う。 3h

↓

4. グループで演じる劇を決め、発表会に向けて準備する。 10h

5. 家族や、お世話になった6年生、幼稚園の後輩に見てもらう。 4h

テーマ学習3 きれいな花を咲かせよう 生活科 7h

1. 春探しで見つけた花を伝え合う。

→

2. 幼稚園での体験を思い出しながら作りや、種まきをする。

→

3. 世話の仕方を考え、役割を決めながら友達と協力して育てる。

プール清掃		遊戯訓練	内科検診	歯科検診	通常検査	卒業式
なかよし学遊足						
1日	8. 安全な水遊び		9. きれいな曲	10. たのしかった1学期		11. 夏休みのくらし
2日	2. 図書館の使い方					
3日	きましよう 8h	4. えとことばでかきましよう 8h	6. なにかわくれているでしょう(整頓文) 8h	8. おはなしのくに 2h		
4日	しゃ(物語) 8h	7. しらせたいことをかきましよう 11h		9. おおきなかな 11h		
5日	しよう 2h	※せんせい、あのね				
6日	言葉けい、だい 2h		ぶんをくつてみましょう 1h			
7日	しよう1-2(あいうえお、かきくけこ) 4h	言葉1なつ、なつぽ 2h	しやしやしや 2h	言葉1絵を、へ 2h		
8日	書写 2h		書写 1h			
9日	3h 4. いくつといくつ 2h	5. あわすていくつ、さえるといくつ 8h	5h	6. のりはいくつ、ちがはいくつ 8h	6h	6h
10日	(たしざん)		(ひざざん)			
11日	3. なつとなかよし (11h)					
12日	わけん 2h	5. ニラえん(い)にう 2h	6. おおきくなおねえ 4h	8. なつはたのしきとがいつぱい 4h		
13日	わけん 7h	※もつとなかよし	7. たのしくあそぼう 2h	※もつとなかよし		
14日	5. おんがくにあわせてあそぼう 12h		7h	まねっあそび		
15日	ひらいたひらいたマーチ 4h	せいじやのこうしん 4h	ためきのたいこ 4h	うみ 4h	けんけんぽ 4h	かたつむり 4h
16日	ツキン 4h	4. かきねてチョッキン 4h	5. おってチョッキン 4h	7. いろいろなかみで 3h		
17日	6. すきなばしよ 4h					
18日	2. ゲーム		3. 水あそび			
19日	遊ぶ 0h	ボールけり遊び 7h	水になれる遊び 12h	深くもぐる遊び 9h		
20日	1. みんなのこうえん 4h	およげじゃんぼこいのぼり 1h	はしのうえのおおかみ 1h	よごれたテーブルかけ 1h		
21日	しぜんのにめら 1h	めだかのめく 1h	にじ 1h	おかあさんおめでとう 1h	ゆうきをだして 1h	

◇実践事例①

生活科を核にした合科的学習その1 ー生活科 国語科 図画工作科ー

友達大好き 学校大好き 総合時数31時間

～友達とのかかわりの中で自己実現できる子どもをめざして～



1 生活科を核にした合科的な学習で教師の願う子どもを育てる

上の写真は、1学期末の子どもの姿である。幼稚園や保育所で自分の興味関心を中心に楽しく遊んでいた子どもたちが、共通の学習課題を受けながら友達とのかかわりの中で活動を進めていけるようになったのである。

4月、70名の子どもたちが市内たくさんの幼稚園、保育所から本校に入学してきた。3名の担任団は、「子どもの自主性を大切にしながら、かかわりの中で自分の思いや考えを表現し、したいことを実現できる子どもにしていこう。」「でも、小学校という社会の中で集団生活を営む以上は、集団生活の約束はしっかり教えていこう。」ということをもまず最初に確認した。

そして、生活科を核にした合科・関連的な単元構成をすることによって、子どもの自主性や、困難を克服する過程で仲間と知恵を出し合う活動等を十分にさせることができると考えた。そして、本単元において下記のような力をつけていきたいと考えた。

～

- ① 目的を持って、一定の空間と時間で友達と工夫しながら楽しく遊ぼうとする。
- ② 自分が「～したい」と思うことを、友達とのかかわりの中で取組もうとする。
- ③ トラブルが起きたら、協力して解決しようとする。

次は、生活科と国語科と図画工作科の合科・関連的な学習活動の実際である。

学校探検Ⅰ 『何がある？ 誰がいる？』 生活科 5 h 国語 5 h	学校探検Ⅱ 『ぼくらは、学校探検隊！』 生活科 5 h 国語 10 h	学校探検Ⅲ 『好きな場所で遊ぼう！』 生活科 2 h 図工 4 h
①子どもが興味を持ったことを大切に、探検を充実させた。 ・家庭科室での調理見学 ・給食室での親子給食 ②図書室については、国語の学習に発展できるように、子どもの意識を高めていった。	①生活班4名の探検隊をつくりかかわりの中で「～したいこと」に取り組めるようにした。 ②1～4階までのフロアごとに探検し、伝えたいことを絵に描いた。（個々の思いが表現できるように貼り絵にする。）	①休み時間、サッカーなどのボール遊びや遊具遊びをしない子どもが、学校探検遊びをするようになった。 ②そこで、学校のどんな場所でどんな遊びをしているか紹介し合った ③砂場遊びや水やチョークでの絵描きを提案したら、とても喜んで取り組んだ。
「もっと、絵本を読みたい！」 ↓ ①個々好きな絵本を読む ②友達の絵本に関心を持つ ③楽しく絵本紹介をする ※国語 「たのしくよみましょう」2 h 「みんなたのしく」3 h	「友達に伝えたい」 ↓ ①発見したことを絵で描き、友達と伝え合う ③一番伝えたいことを絵と言葉で書く ※国語 「話しましょう。聞きましょう」6 h 「絵と言葉で書きましょう」4 h	「幼稚園の時のように遊ぼう」 ↓ ①道具や材料を使って作る 教室・校舎内・砂場・遊具・中庭・道路・空地等 (水・チョーク・段ボール) ※図工 「好きな場所で」4 h



わあ、お兄ちゃん、野菜切るの上手だな。ブロッコリーもゆでているよ。おいしそう。



校長先生のお部屋にはいろんなものがあるね。大きな机もある。

わあい、私たちの隠れ家だ。今度は、学校の外にも隠れ家をつくりたいな。



2 活動の中で見えた子どもの育ち

(1) 好奇心と活動意欲(自主性)が子どもの「学び」を広げ、深める。

◇「給食室って、何をするとところ？」

学校探検での広がりとして、教師の方で予想した「図書室」での本や図書の先生との出会いから本に関心を持ち、「個々の好きな絵本を読む」「友達の絵本に関心を持つ」「楽しく絵本を紹介をする」という国語の学習へと広がっていくことができた。しかし、子どもたちは多くのことに関心を示し、特に家庭科室や理科室、給食室では何が行われているのかに興味を持った。話し合い、給食室と家庭科室を追究することにした。



調理員さんの話を聞く子どもたち

給食室を訪れた子どもたちに、調理員さんから、「給食がどこで作られ、どのように学校に届けられ、そして、ここで調理員さんがどのような仕事をして教室まで給食が届けられるのか」についての話を聞いた。子どもたちが給食に興味・関心を示した今がチャンスと思い、給食主任に「給食指導」もお願いした。

「学校にはいろんな先生がいるんだね。」

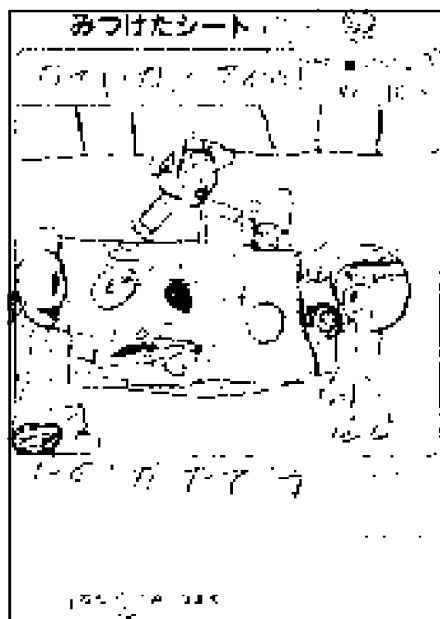
「遊び的感觉」から始まった学校探検の活動が、学ぶことへの意欲へと少しずつ発展していった。



そして、数日後の親子給食では、調理員さんや給食主任の先生から聞いた給食のお話を、誇らし気に母親に話をする子どもの姿を見ることができた。

◇「家庭科室での勉強見てみたい？」

下図は、5年生の調理実習を見学した後の子どもの表現である。「楽しかったです。」という力強い文字にその思いを強く感じることができ、



5年生のお兄さん、お姉さんがとてもいきいきと描かれている。

「いいなあ！」

「小学校って、

国語や算数の勉強だけでなく、料理を作る勉強もするんだ！」

と、見学しながらつぶやいていた子どもの声が聞こえてくるような表現である。

幼児教育での「遊び」でも、小学校における「学び」でも共通することは「子どもが夢中になる」ことであり、子どもの「思い」に寄り添いながら学習を発展させていくことが大切である。



家庭科室での調理実習の見学

(2) かかわりの中で、折り合いをつけながら活動する子ども

学校探検Ⅱ、いよいよ4人グループでの「たんけん隊」での学習である。共通の課題に基づく協同による学習である。

「どうしたら、なかよく学習できるかな？」という教師の問いに、「約束を決めるといいよ。」という答えが返ってきた。幼稚園でもそうだったのかもしれない。グループ毎に約束を話し合い、話し合ったことをもとに学級全体の約束を決めた。



発見したことを絵に描く子どもたち

教師は、子どもたちの決めた約束を尊重し、子どもの活動を可能な限り見守り、どうしても必要な時に支援を行うようにした。活動が始まって2時間目のことである。ばらばらに活動しているグループがいくつかあった。約束違反である。しばらく様子を見てみるとどうやら男の子が女の子の調査や書き取りを待てず、勝手に自分たちの好きな場所へ移動しているということがわかった。“自分が「～したい」と思うことを、友達とのかかわりの中で取り組む”“トラブルが起きたら、協力して解決する”ということを目指にしてきたので、子どもたちがどのような解決していくか見守ることにした。しかし、男の子と女の子のばらばらの行動は続いたままだった。

学校探検隊による絵の表現とお話



○5年生が大きなふでをもって、「自由」という字を書いていたよ。



○4年2組にお姉ちゃんがいたよ。とても楽しそうに勉強していたよ。



○ぼくたちが勉強している2階には、コンピューターやたくさん本があったよ。



○1階の外に、大きな水たまりが見えたよ
○校長室はいろんなものがあったよ。

教室に帰ってきた時、今がチャンスと思い、約束違反について聞いてみた。

「だって、女の子、とても遅いんだよ。」
「ぼくたちのグループも絵を描くのがはよい人、遅い人がいるけど待つことにしたよ。」

「あんまり遅いのはよくないと思う。」

いろいろ意見が出た後に、『先に書き終えて、先に行きたい時は、行く場所をきちんと伝えていく』という約束を新たに加えることにした。相手のことを考え、折り合いをつけながら活動していくことを学級全体で学ぶことができた。しかし、活動を共にする仲間とトラブルを解決できないことは課題として残った。

その後も小さなトラブルはあったが、協力して活動を続け、左図のようにまとめた。1階から4階までの探検で、一人一人が伝えたいことを貼り絵にした。そして、この絵をもとに、「伝え合う学習」（国語）を行った。

ふり返り

- 目の前の困難（トラブル）を克服していくことは生活科の学習で大切にしたいことである。今回、グループでの活動のトラブルを全体での話し合いで解決していく手法をとったが、全体での話し合いは「正論」に押されてしまう。それはそれで必要なことであるが、個々のトラブル解決力が育ったとは言い切れない。もう少し、各グループで解決していくための手立てをとる必要があった。
- 本単元での一番の困難は、学校探検Ⅱでの協同学習であった。決められた班（4名）での協同学習は初体験だったかも知れない。学校探検Ⅲの図工の学習と関連づけた「好きな場所で遊ぼう」の活動では、集まった友達同士が互いの意見を言い合いながらも、まるで何事もなかったかのように楽しく活動を続けていた。今回、「遊び」を最後の活動に位置付けたが、最初に位置付けた方が自然であったと思う。遊びの中での子どもの自主性や思いやり、トラブル解決力等の実態を見取ることによって、その後の活動での個に応じた支援に生かすことができたと思う。

◇ 実践事例②

生活科を核にした合科的学習その2

保育所のお友達と遊ぼう

総合時数 25時間

生活科	保育所のお友達と遊ぼう 8h
国語科	おおきなかぶ 11h おはなしのくに 2h
図画工作科	いろいろな紙で 4h

小学校に入学し、学校生活にも少しずつ慣れてきた子どもたち…。

このときにこそ、

- ① 自分の思いを言葉や動作で表現し、「自分らしく輝く心地よさ」を
- ② お互いの考えや力を出し合い、「人とかがかわって学ぶ楽しさ」を
- ③ 学習の成果を発信し、「やり遂げる成就感、誰かの役にたつ有益感」を一人一人に味わわせ、小さな自信を確かに芽生えさせたい。

1 子どもらしさが生きる「横断的な学習」へ 【ダイナミックに単元を構成してみよう】

「おおきなかぶ」は1年生国語科の代表的な物語教材である。国語科だけで行われた実践では、動作化し発表する形態がよく見られるが、子どもたちが保育所等で体験してきたような多様な活動を生み出すことはなかなか難しい。

そこで、本事例では、①かかわり合いによる学びの楽しさ、②異年齢児と遊ぶ楽しさを体験することを主眼に置きながらも、③小学校入門期の物語教材との出会い、④劇に必要なものの創作や、多様な表現の楽しさなどを体験することもねらいに加え、学習・生活両面にわたる確かな成長を求めている。

そのため、教科を横断した学習活動を構成し、生活科、国語科、図画工作科を関連させることとした。その際、活動全体でめざす子ども像を明確にしたうえで、子どもの実態をとらえ、それぞれの教科のねらいが達成されるよう十分に吟味し、計画した。



2 学びのスタートは「遊び」から 【保育所のお友達と遊ぼう】



学びには動機が必要である。1年生の発達段階を考えた時、遊び心をくすぐるようなきっかけがあれば、子どもの意欲は倍増する。この事例では、保育所への訪問が、それである。子どもたちは、久しぶりの保育所訪問に、ちょっぴり照れながら建物の中に入った。懐かしい積み木、お遊戯場、そして先生…。「よろしくお願いします！」園児の気分に戻って、遊具で遊び、在園児とたわむれる子どもたち。「お姉ちゃん！」手をひかれて遊ぶ子どもたちの笑顔がまぶしい。集まって遊ぶ子どももいれば、一人で跳び箱に興じる子どももいる。1年生はこの園児たちと

の交流を通し、同じレベルで遊ぶだけではなく、何かこの園児たちのために自分たちのできることをやってみたいという思いをもち始めた様子であった。そこで、担任は「また遊びに来てみる？」と声をかける。すると、「うん、来る！」「この次は、（園児のために）何かしてあげたいなあ。」「劇をして、見せてあげたいな。」と、口々に思いを語り始めた。担任が子どもたちの様子から、思いを読み取り、思いの高まった適切なタイミングで、次の活動へのきっかけを投げかけた。このことで、「遊び」が「学び」につながっていく。このように、この時期は特に、子どもを丁寧に見取り、思いに寄り添って働きかける担任の力が求められる。

3 意欲的な「読む」学習に

【「おおきなかぶ」を読んでみよう】

保育所の子どもたちのために劇をすることになったわけだが、そんな時、国語科の「おおきなかぶ」は絶好の学習材となる。①様子を想像して読み、②自分の好きな登場人物を選んで演じる。

「どんな役になりたいかを考えながら、読んでみようね。」

こんなことばがけで、子どもの心に火がつく。子どもは明確なゴールに向かって学び始めた。

4 教え合い、助け合う「ペア学習」へ

【「おおきなかぶ」を劇にしてみよう】

いよいよ劇化へ。読みの学習を通して、子どもたちは確かなイメージを持つことになる。より多くの子どもの希望する役につけるように、一役を複数で演じることとし、互いの表現を見合い、よさを学び合うことを確認した。お面を作ることも子どもたちの楽しみとなる。子どもたちは笑顔で学び合う。

単元の流れ （25時間）	
◇「保育所のお友達と遊ぼう①」	・異学年の子どもたちと遊ぶ ・次回の交流を楽しみにする ～劇を発表しよう！～
◇「おおきなかぶを劇にしよう」	・演じたい役を選ぶ ・様子を想像して読む ・演じる～ペアで教え合う～ ～校内で発表する～
◇「保育所のお友達と遊ぼう②」	・めあてを持って遊ぶ ～より心地よいかかわり～ ・劇を発表する



5 大きなドキドキを「小さな自信の芽」へ 【「おおきなかぶ」を発表しよう】

初めての発表の相手は6年生。いつもお世話になっているお兄さん、お姉さんの前で発表に、子どもたちは緊張の連続であった。「保育所のお友達の前で発表する前に、お兄さん、お姉さんにも見てもらおう。」「喜んでくれるかな。」「上手にできるかな？」そんな思いで、一生懸命に劇に取り組んだ。

終わった後、上級生からは感想が発表される。優しいことば、励ましのことば…。それを受けて、自分たちなりにふり返り、楽しかったところ、うまくいったところ、次に頑張りたいこと等を共有し、保育所での発表へと気持ちを高めた。



6 相手意識をもって訪問計画をたてる 【保育所で何をするか決めよう】

「おおきなかぶ」の学習で、保育所の子どもたちへの思いが強くなったことで、当日の遊びを考える子どもたちの姿にも変化が見られた。一度目の訪問の時には、「積み木で遊びたい。」「鬼ごっこをしたい。」と自分のしたいこと、楽しみたいことを挙げていた。それに対し、今回は、「お絵かきをしたいけど、保育所の子は何をかいいたら楽しいって言うってくれるかな?」「ボールで遊びたいけど、保育所の子はドッジボールじゃ難しいかな?」と自分の気持ちだけでなく、保育所の子どもたちの気持ちをも思いやることができる子が出てきた。



どんなことを頑張ればよいのかというめあてを、①保育所のお友達に優しくする、②ゆずりながら遊ぶ、③自分たちも劇を楽しむ、としたことから、自分たちだけでなく、保育所の子どもたちにも楽しんでほしいという思いが読み取れる。

実際の交流の場面でも、言葉がけやしぐさなどに、相手の反応を気にかけるような姿が見られた。劇づくりを通して育った具体的な相手意識が、その他の活動の計画にも広がっていった。





7 遊びの中で気づきを豊かにする 【保育所のお友達と遊ぼう～劇も発表しよう～】

楽しそうな笑顔と共に、少しの緊張感も漂わせながら、保育所の門をくぐった子どもたち。遊びが始まると夢中になって活動していたが、仲間に入れない保育所の子どもが一人つまらなそうにしているのに気づき、数人の子どもが「一緒に遊ぼう！」「何して遊びたい？」と声をかけた。反応がないので、しばらく考えていたが、1冊の絵本を持ってきて、読み聞かせを始めた。特に盛り上がることもないまま遊びの時間は終わってしまい、劇の時間となった。ところが、劇が始まるとつまらなそうにしていた先ほどの子が、一番前の席に座り、真剣に劇に見入っていた。劇が終わると、一生懸命に拍手を送っていた。読み聞かせをした子は、学校に戻ってから、「本読みでは仲良くなれなかったけど、劇は喜んでもらえたのでよかった。」と振り返りで話していた。

この子の発言からは、かかわる相手に対する思いやりと共に、精一杯劇に取り組んでよかったという思いも感じる事ができた。遊びの中でもった思いをスタートに、劇づくり、再度の訪問に取り組んだ本単元であったが、人とかかわって学ぶ楽しさややり遂げた成就感、誰かの役に立つ喜びを、味わう事ができた。このことは、教師が、子どもたちに寄り添いながら、思いや願いの高まった瞬間を見逃さず、その思いや願いを活かして、次の学習を組み立て、子どもの自発的なめあてをもとに、主体的な活動につないでいったものによると考える。

◇ ふり返り

合科的な学習では、それぞれの教科のねらいが曖昧になってしまい、漫然とした見取りになってしまうことが危惧される。そこで、今回の単元では、教科のねらいを大切に考えた計画をたて、指導にあたってきた。しかし、学校生活のスタートのこの時期においては、特に子どもの願いや思いを大切にしたい。子どもの実態や成長を捉えつつ、徐々に教科のねらいの比重を高めていくことが大切だと考える。合科的な学習を展開するにあたっては、子どもたちが主体的に取り組む活動の中で、いかに教科のねらいに迫っていくか、そのコーディネートが重要になってくる。

